



職員の皆さん、協力会社の工事関係者の皆さんには、日々、工事施工にあたり精力的に取り組んでいただきこの場を借りて感謝を申し上げます。

さて、7月1日(水)～7日(火)は93回目の全国安全週間です。全国安全週間は労働災害の無い安全で働きやすい現場・職場づくりを目指す週間です。今年のスローガンは「エイジフレンドリー職場へ！ みんなで改善 リスクの低減」です。

昨年度、当社では残念ながら休業災害1件を含む、6件の労働災害が発生しました。体調不良というケースもありましたが、その発生要因のほとんどは慣れや惰性、ルール違反による不安定行動でした。ケガや事故の被災者になる可能性は誰にでも等しくありますが、発生した事案の原因を分析・解明した上で、「誰のための安全なのか？」という原点に立ち返り、作業手順やルールを遵守し、現場や職場で働く一人ひとりが「労働災害を絶対に起こさない」という強い決意を持っていただきたいと思います。

スローガンで使われている「エイジフレンドリー」とは「高齢者の特性を考慮した」を意味する言葉で、WHOや欧米の労働安全衛生機関で使用されています。高齢者に限らず、女性も含め、働く人全員が、快適で安全に仕事ができる環境を整備することが、労働災害の防止につながります。新型コロナウイルスの感染拡大は収束に向かっていくという見方もありますが、ワクチンなど根本的な解決策はまだ見つかっていません。引き続き、感染症の予防、拡散防止にも努め、目に見えない敵と共存しながら働くことになると思います。

働く人の「人命尊重」「安全第一」という全国安全週間の基本理念を土台に、今こそ「私たち建設業が地域を支える」という気概を持って日々の仕事に取り組んで参りましょう。皆さんの更なる「誠実な努力」を期待します。



戸沼岩崎建設株式会社 代表取締役社長 戸沼 淳



安全と衛生



戸沼岩崎建設株式会社 発行

令和2年6月15日

<http://www.tonuma.com/>

第240号

向夏号



コロナウィルス感染症 と 熱中症

新型コロナウイルスの対策が続く中で迎える熱中症シーズン。総務省消防庁によると、昨年、5月から9月までに熱中症で病院に搬送された人は全国で7万1317人。熱中症に詳しい専門家は「今年は誰も経験したことのない夏になる」と例年以上に熱中症への備えを徹底するよう呼びかけています。

その理由の一つに、コロナウィルス予防対策としてマスクを着用していると体内に熱がこもりやすく、喉の渇きが感じづらくなり、気付かないうちに脱水状態が進んで熱中症になるリスクがあるという点です。

熱中症予防のポイントとして

1. 朝・昼・晩の三食をきちんと食べる。
2. 喉が「乾いたな」と感じ始めたら水分を摂取する。(多量のアルコールやカフェイン等の摂取は控える。)
3. 経口補水液を常備する。
4. 喚起をこまめにし、湿度も高くないように注意する。(環境省が毎日発表する「暑さ指数」もチェックする。)
5. クーラーがあるところは、すぐ使えるよう調整し、暑いと感じる場所にいない。
6. 快適な環境でよく睡眠をとる。(疲労も熱中症リスク)
7. 人混みを避けた散歩や室内での軽い運動を行う。

以上、7つが挙げられます。

大手建材メーカーの YKK AP は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、窓を活用した効果的な換気方法についてHPなどで紹介しています。それによると、開ける窓は1カ所より2カ所で、2方向の窓を開けること、部屋の対角線で風を通すとさらに効果的とのこと。窓が1カ所しかない場合は、室内ドアや他の部屋の窓を開けて風の通り道を作ったり、扇風機などで空気をかくはんしたりすれば、換気ができるということです。特に、横にスライドする引き違い窓では窓を真ん中に寄せて、両側を開けるようにすれば、2カ所から空気を取り込めて効果的だとしています。



職員インタビュー



岩田地崎・ドーピー・戸沼岩崎特定建設工事共同企業体の「3・6・82号臨空工業団地通交付金湯の沢川橋新設(上部工)工事」担当の垣田悟さんにお話を伺いました。

垣田さんは46歳。平成4年3月、函館工業高校土木科を卒業。平成31年4月1日、戸沼岩崎建設に入社しました。4名家族、函館市内にお住まいです。

垣田さんが担当している工事は、北海道函館建設管理部の発注で、来春完成予定の函館新環状道路の日吉インター周辺から臨空工業団地に繋がる道道に架かる長さ199m、最上部が地上から45mと高い場所の橋げた工事(上部工)です。

施行方法は「片持ち架設工法」という特殊な装置機械(ワーゲン)を使用します。ヤジロベエのようにバランスをとりながら、コンクリートの型枠を取付け、鉄筋を組み、コンクリートの打込みを繰り返して、橋を伸ばしていきます。橋を延伸していくのに最も重要なのがPCケーブル(コンクリートの中に何層にもなったワイヤーの束)を挿入して行う「緊張」(特殊な油圧装置でPCケーブルを引張って圧をかける)と呼ばれる作業です。約2週間で8m程度進みます。現在、工事は中間点を折り返し、約7割程完了しました。



現場ではコロナウィルス対策として、朝礼の整列時には2m間隔を確保(立ち位置の明示)する他、消毒薬を配備し、作業員へは手洗い、マスク着用、うがいの実施を促しています。また、現場事務所の業務机は対面となっているため、透明なシートで仕切りを設けています。

垣田さんは、現場で働く人たちと良好なコミュニケーションを図ることを日々心がけています。新人時代、バックホーでの吊荷作業で玉掛作業を手伝っていたところ、オペレーターとの合図が不十分だったのか、吊り上げる際、ワイヤーの輪に手の指を挟まれてしまいました。幸い、保護手袋をはいていて指を引き抜くことができたので大事には至りませんでした。一歩間違えれば重大な事故になっていました。それ以来、玉掛作業の際は、合図者を配置した上での確に合図をすることが如何に重要なのかということを繰り返し注意喚起しています。